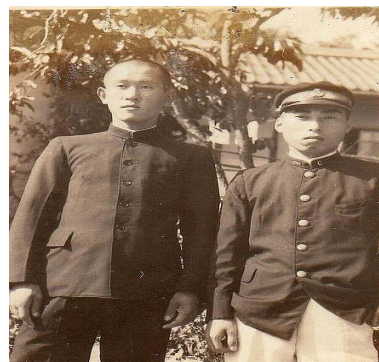


コラム：24 父の青春 その1

その写真の裏には「昭和十一年三月中旬撮影 長閑ナ春ノ一日」と書いてありました。妻が持ち帰った、義父(オトウサン)の古いアルバムの中に見つけた写真です。学生服を着た二人の青年が、本当にくつろいだ表情で、藁の山の上で、寝転んでいます。上側にいる一人は、明らかにオトウサンです。オトウサンのこんなに明るい笑顔の写真を初めて見ました。大正6年生まれのオトウサンは19歳、いかにも青春真っ盛り、という雰囲気の写真です。



二人の写真の中の、もう一人の青年が分かりませんでした。よく見ると、その写真の上に、なにやら英語のサインがしてありました。それは英語筆記体で、「Motoyama」と読めるのです。もしかしたら「あの人」ではないか、と思い、アルバムをめくると、他にも2枚、同じ青年の映った写真がありました。大柄なガッシリとした体躯と、あの顔立ちは、間違いなく、私が知っている「Motoyamさん」でした。

私は、17年前に、妻の父母や子供たちと、米国に旅行し、オトウサンの中学時代からの親友であるという「Motoyama」夫婦と家族の方に、会っているのです。下の写真は、ロスのホテルの前で、初めてお会いした時の写真です。右側の大柄な人が Motoyama さんと婦人、順にオトウサン夫婦、私の妻と子供たち、そして左端が長男さん夫婦です。私たちには初対面でも、オトウサンにとっては、ずいぶんと久しぶりの再会であったようです。



オトウサンは旧制中学を卒業後に、ハワイの養父母のもとに1年滞在後、帰国して高商に進学。その後、三菱マンに。。Motoyamaさんの方は、日系一世の父母の住む米国に渡り、ハワイの大学に進学することになります。そして、終戦後の日本で、彼は米軍兵士(二世部隊といわれました)として、オトウサンと再会することになるのです。敗戦後の日本を裁いた「極東軍事裁判」にも通訳としてかかわったそうです。いつか「裏話」など聞く機会があれば、と思っていましたが、6年前に他界され、オトウサンも昨年逝かれて、当時の詳しい話を聞くことはできなくなりました。

アルバムをめくると、オトウサンの珍しい水着姿の写真も出てきました。旧制中学で器械体操をやっていたというだけに、小柄ながら、贅肉をそぎ落とした若々しい肉体です。95歳まで元気で生きる基礎体力は、この頃からあったのかもしれませんが。地元の海岸で撮った写真のようですが、かなり鍛えぬいていたことを、想像させる体です。



冒頭の「二人の若者」の写真の撮られた昭和11年という時代は、日本史年表をみると、「二・二六事件」という軍事クーデターのあった年であり、この写真は、その1か月後に撮られたことになります。そして、その翌年には、日華事変が始まり、日本は長い戦争の時代を迎えることになるのです。これは、暗く騒然とした時代に突入してゆく「前夜」の、若者たちの青春の表情とも言えます。

下の写真は、今から11年前に3回目のアメリカの旅をした時に、長女さん宅に食事に招かれた時の、オトウサンと「Motoyamaさん」の姿です。二人はいつまでも、何か語り合っていました。そして、これが二人の「最後の出会い」となったのです。



「オトウサンが、学生時代からの友だちを大事にしてくれとったけえ、わしらも、米国に友だちをもつことができたんじゃないけえ、人のつながりいうのは、おもしろいのう」